

第11回体の動きを高める運動領域部会記録

参加者 河野 古川 岡田 畠中 坪根 藤原 鈴木 山本 藤井
常任理事 黒澤校長 横山

1 今回の部会での検討内容

- (1) 夏季合研発表リハーサル
- (2) 夏季合研当日の動きの確認
- (3) 想定質問の回答を考える
- (4) 河野部長より

2 昨年度の研究内容の確認

- (1) 夏季合研発表リハーサルを終えて

①プロモーション動画の音が出ていない。

古川 もう一度流してみます。→再度確認し、スムーズだった。(藤原、河野)

河野 岡田さんのやつももう一度流してもらっていい？

→ もともとの音が小さい。

岡田 こっちでしゃべっちゃうのもいいかと。子供たちのセリフをしゃべるのはどうか。

河野 それがいいと思う。

岡田 じゃあ、先ほどのスライドのところは私の方で説明します。

②16分かかっている時間の問題はどうするか。

河野 スライド4を削ってスライド5から残す。

畠中 調研部から出ていた学習課題を載せている部分を削る。

古川 1つ目、2つ目は1点目、2点目にする。

横山 スライドが切り替わる時のアニメーションを取ると良い。

③その他

河野 背景が黒だと色覚異常の方は赤が見づらい。色も3色程度におさえると良いと佐々木先生にご指摘いただいた。→対応済み。基本的には白に太文字で作成する。赤より朱色を使う。

畠中 「問い掛け」を「言葉掛け」に直す。

- (2) 夏季合研当日の動きの確認

畠中 古川さんがホストをもらう。それ以外は前回出した資料通りで大丈夫。

当日は、9時25分から入る。IDとパスワードは後でLINEに送る。

岡田さんと藤原さんのペアで発表と操作を行う。→ 古川、岡田、藤原は同じ場所にいる。

最後に河野部長と黒澤先生から一言もらう。

藤井 ブレイクアウトセッションでは、どのように話し合いを進めればいいのか。

畠中 ①領域の特性、②学習過程、③実証授業第1回、第2回について話し合う。

深めるところとしては、手だてについて深める。1番はグループ協議なので、まずは皆さんの意見を吸い上げることだと思います。司会は答えることが第一ではないので、どんどん引き出せるとよい。

古川 引き出して、各グループで答えられないけど、いつの場面で答えるんだっけ。

畠中 グループで答えられるものは全部答えて、全体で深めたいなと思うものは全体に出します。「質問お願いできますか。」とふってお願いしてもらえると進めやすいのかなと思います。

岡田 今の想定だと10人くらいだと思う。グループ協議30分だとするとあっという間に経ってしまう。

河野 できれば1つのグループは5～6人がよい。→1グループ5～6人に変更。

グループ協議の進め方

①自己紹介をする。

②今日の発表を受けてどうですか？→感想、質問を一人一言ずつ言ってもらう。

③領域の特性、②学習過程、③実証授業第1回、第2回について話し合う。

④それぞれの手立てについて深める。

・ロードマップ・問いの分類・プロモーションムービー

○何も出なかったらロードマップについて深める。

⑤全体で取り上げたい内容については「質問お願いできますか。」と参加者に促す。

参加者の意見を
引き出す！

※ 司会が「手だての1点目についてはどうですか。」など焦点化して話し合いを進める。

※ 自分で答えられることについては答えるが、全体で質問するように促す。

※ 協議会の内容を部会で共有したいことが出たら、部会のLINEで共有する。

○ パソコンの予備順位について

① 藤原 ② 古川 ③ 山本・・・全員がパワーポイントとプレゼンの内容を一応準備しておく。

○ パソコンの全体記録・・・山本

(3) 想定質問の回答を考える(作成、修正したものをドライブで参照。)

13 夏季合研 高めるへの質問と回答

1	大川	学習課題	① 子供の思い・願いをどのように喚起し、学習課題を見いだせるようにしていくのか。	教師が「教師が教えること」「子供が考えること」「教師が支援・手だてを講じること」を整理した上で、学習の初めに単元の目的を共有し、子供の問いを学習課題へ方向付けていく。 第1時の前半は、子供が運動に取り組む姿を賞賛する言葉かけを多くし、子供の学ぶ姿を価値付けていく。学習の途中で、「高まりとは何か？」という疑問を生じ、体の動きを高めるという目的意識と、高まりの実感をどのようにしていればよいのか子供が考える機会を設定し、後半は、教師から「何が高まりそう？」という疑問を通して、行っている運動の目的や行い方、高まりの実感について意識を向けられるようにする。 ①クラス全体で動きを高める動きの目的の共有をする ②4要素について共有する ③プロモーションムービーを活用し、やってみたいという意欲を高め、運動に取り組む(教師は、取り組みを賞賛していく) ④教師は疑問をしていく。「高まりとは何か？」という疑問を投げかけ、学習を深める。 ⑤「何をしているのか?」「これをやって何が高まりそう?」、「高まりって何だろう?」、「何でそれをやっているのか?」、「高まりってどうやって感じればよいのか?」 ⑥繰り返し「やってみてどうだった?」(学習カード) ⑦全体で共有 ⑧第2時は問いを共有して、最初の高めるという目的(「高めたい」という目的)を確認していく。
2	藤井		① オリエンテーションでプロモーションムービーを流す理由を教えてください。	体の動きを高める運動に対するイメージ作り(5年生)と児童の意欲の高まり(6年生)のためです。
3	岡田	運動との出会い	② これまで使っていた第1時のオリエンテーションソフトは活用しないのか。	子どもたちが「問い」を見出すことに重点をおくことや、多様との接続を意識することを考え今回の第1時を提案する。5年、6年と学習を経ていくことでパワーポイントで抑えていた内容を網羅しながら学習課題を解決できるようにしていく。パワーポイントの内容を精選し、子供たちに伝える必要のあるものは伝えていく。
4	藤原		③ 運動プロモーション動画は自分たちも使用できるものになるかどうか?(ぜひ使用したいと思う人が多ければいいと思う。)	cdにしてお渡しする?それともムービーに取り入れる要素について教える?ネット環境を利用する?
5	藤井		④ なぜ、児童の問いに注目したのですか?	子供が問いをもつことで、問いから学習課題を見出します。そして、子供たち一人一人が主体的に学習に取り組むと考え、問いに注目して学習計画を立てました。

質問への解答の分担は、

○想定質問集の内容は質問を出した人が答える。

- ①アプリについて 山本チーム
- ②運動開発について 大川チーム
- ③ロードマップ・学習カードについて 藤原チーム

発表最終確認後

- ①画面の切り替わりのアニメーションのような動きは画面がスムーズにいかないためである。
- ②黒澤先生より 誤「教師の働きがけ」 → 正「教師の働きかけ」
- ③黒澤先生より 6年の学習過程の中に「学習全体のロードマップ」と「学びのロードマップ」との違いは何か？ → 「学びのロードマップ」に統一。
背景は白で良くなった。

○河野先生より

当日は、部会のメンバーが11名集まれる。まずは、それぞれのブレイクアウトセッションで部会の役割を進行していただいて、できるだけ色々な人から焦点をしぼった意見を出せるように働きかけをしてください。その後の全体協議の中では想定質問集と役割分担通り（アプリ、運動開発、ロードマップ・学習カード）する。できるだけ部員全体で解答できるように進めていきましょう。解答できないところは副部長代理や副部長が解答してくれると思いますので、まずは自分がこれを答えようとして答えてください。当日の参加人数が読めないの、臨機応変に対応していきましょう。そのために、全員が原稿に目を通して誰でもできるように準備してください。また、パワーポイントの準備もしてください。よろしくお願いします。

古川 明日の昼ぐらいには Google ドライブにアップするので、各自で資料を確認してほしい。

4 常任理事の先生より

黒澤校長

「備えあれば患いなし」という言葉の通り、今日の部会で十分に良い準備ができた。

畠中 Zoomでの集合時間は9時30分くらいかな？

畠中 9時25分に受け渡しがあって、部員の「Zoomの集合時間」があった方がよい。

→ 河野先生より、送られてきているアカウントがLINEで送付された。

→ 古川さんが入ったら部会のLINEで「入れますよ。」と合図がある。

合図があったら、Zoomに入る。

○ 全体会は中止。高める部会が終わった後の参加についてはLINEにて部会で参加調査をする。

→ 調査研究部から「均等になるように調整する必要がある。」とされている。

→ 岡田さんから後ほど調査があり、均等振り分けられる。

○ Zoomアカウントは、それぞれの学校に送付されているのと、ホームページにも載っているので一般参加の人にも知らされている。

○ 不安なことがあったら、LINEで共有する。